

佐須の 秋

◇水辺では

佐須用水の源流は農業高校の敷地内の湧き水ですが、その流れは農業高校敷地を出たところですぐに暗渠となり、柏野小学校南側の畑のあたりまで顔を見せません。

11月3日、今年度の環境モニターの観察テーマは「調布の水辺の植物」ということで今回は佐須用水の植物調べを行いました。この日はメンバー10人程で佐須用水が野川に流れ込む細田橋から出発、柏野小南まで遡って歩きながら水辺の植物を観察しました。

・佐須用水はコンクリートの3面張り。そして川沿いには金網が張り巡らされているので、外側からの観察。田んぼのイネ刈りも終わり、水量は割合豊か。



・下流あたりは川の中にジュズダマがたくさん繁殖、実りの季節であった。

・ミゾソバは2箇所には繁茂していたが1箇所ではピンク色の可愛い花を咲かせていた。

・少し行ったところにはセキショウの群落(上)、その先にはツルヨシ等、水辺の植物が元気(中)

・周囲に畑が現れるあたりからオランダガラシ(クレソン)が繁殖しているのが見られ、この時期でも春と同様青々としていた(下)。オオカワジシャも数本確認できたがクレソン・オオカワジシャ共、帰化植物なのであまり歓迎できない水辺の植物である。



・佐須街道手前には春と同じようにミクリが繁茂。栗のイガのような実をつけていた。昔は田んぼの畔などによく見られたらしいが、現在、調布市内ではめずらしい。



◇田んぼでは

11月4日、お天気に恵まれ収穫作業です。



皆でもみすり作業

案山子さん、お役目ご苦労様。



田んぼの畔にはこんなに可愛いヨメナが

田んぼの学校に参加してみても

調布市深大寺北町に住んでいる近藤と申します。今年の2月に調布に移り住んでから夫婦で田んぼの学校に参加させていただいて、はや11ヶ月になります。この間に感じたことを書かせていただきます。

田んぼの学校では大勢の親子に混じって私たち夫婦も泥んこになって田んぼの作業を教わってきました。初めて参加したのはちょうど田起しの最中でした。ベテランのスタッフの方たちに親切に教えていただき土と格闘しました。全身を使って踏ん張りながらやる作業は普段使うことのない筋肉まで総動員で毎回筋肉痛の連続ですが、同時に心地よい疲労をもたらしてくれます。

初めて水を張った田んぼに踏み入れた時のことが今も忘れられません。田んぼの熟成した土が泥となり足の指と指の間ににゅるにゅると入り込んできてなんともいえない感触を味わいました。田植え後の田んぼの泥はさらにふわふわになっていてまさに泥自体も生きているという感触で、これこそ無農薬ならではだなあと感じました。

田植えも終わりあつという間に稲は実り、これからは収穫の秋。秋には楽しい稲刈りと餅つきが待っています。農作業は大変で、一人だととても大変な労働ですが、大勢の方が寄って田んぼを作り上げていくととても楽しい

作業になります。私たち夫婦も田んぼの学校のおかげで少し地域の仲間入りが出来たような気がしています。

私が調布市のHPの自然だよりで近藤校長先生の記事を読ませていただいてからは田んぼをただ眺めているだけでは分からない、様々なことを学ばせていただいています。地方の田植え体験ツアーなどの催しが最近盛んですが、灯台下暗しでこんなに素敵な場所がこんなに身近にあることに多くの方に気づいてもらえればと思います。(近藤悠希)

田植えに精を出す筆者夫妻(中央)



◆入間・樹林の会

11月18日は3人で雑木林広場の奥のほうでびっしりと地面を覆っているピナンカズラを刈りました。ここには陽がさしているので来年はどうなるのか楽しみです。そして危うくヤマユリまで刈りそうになり新たな株の発見に小躍りしました。

工期が遅れている緑地整備事業は来年1月から始まります。しばらく樹林地内への立ち入りが禁止されるとのことです。犬の散歩にこられていた方が犬が喜んで樹林地に入りお気に入りの散歩コースだと話されていました。立ち入り期間のお知らせについてや看板・掲示板の作成、工事計画などを緑と公園課に確認する必要があります。散歩に来られる市民が保全活動に参加しやすい掲示の工夫と広報をしていきたいものです。

花は見当たらず、ヤブラン・マユミ・チジミザサの実と赤いピナンカズラの実を見つけました。(安部)



——ニュースレター81号入間樹林の会を読みました——

部外者で申し訳ありませんが、感じるころあって寄稿させていただきます。

樹林の辺縁部は袖とかマント群落と呼ばれる植物が繁殖します。里山的樹林に人が手を加えて整備しても、周辺は藪のような下草やツタなどからはじまり、次第に低木から高木へと推移していきます。樹林全体の植物がその一員であるはずですが。

しかし葛は、樹林の中では繁殖しませんが、時に猛威をふるい、高木に絡みつき枯らしてしまうことなどもあるので、その前に剪定する必要はあると思います。反面、活動の一環としては葛の根(地下茎)を掘り出してでんぷんとったり、花はポプリや香水にするような体験があっても面白いかもしれないと思いました。

あと、今までモグラ塚がなかったというのが驚きです。この辺りでは、ミミズのいるところにモグラもいます。モグラは土を耕すミミズを食べてしまうので、あまり歓迎すべきお客様ではないのですが、肉食性の鳥や猫などの小動物の餌になるので、今後入間樹林にふくろうの仲間などが戻ってくる可能性もあります。まだまだ時間はかかりませんが、人と動植物が共生でき、自然と隣り合わせの環境が残されるように、活動を続けたいと思います。

(田んぼの学校 こんどう)

たまには図鑑を…

目立つ花は付いていないけれど、なんてスリリと爽やかな草なんだろう？これはなんという名前なの？



近道は他人に聞くこと。時間がある方は環境モニターのメンバーになる、横山先生が市報で募集している「調布野の花めぐり」に参加するなど。

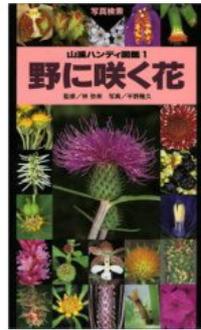
だけどたまには、自分で調べてみませんか。

身近な植物については、横山先生作成の「調布・野の花 100」春編と秋編、(観察会でいただけます)そして多摩川の植物なら環境モニターが作った「調布・多摩川オリジナル図鑑」があります。(環境政策課に問合せの

こと)。「もう少し詳しく知りたいのよ」という方には図鑑の購入をお勧めします。よく知られているのは山と溪谷社のハンディ図鑑「野に咲く花」。

このシリーズには「樹に咲く花」も3冊あり「山に咲く花」、「日本のスミレ」、「高山に咲く花」、「日本の野菊」と興味が広がるにつれキリがない。

その他、全農協の「形とくらしの雑草図鑑 見分ける、身近な280種」などという分かりやすい



本もあります。また、最近九州など南方の植物や海外から入ってくる植物も多い。多摩川べりでも様々な帰化植物が見られるので、そんなときは全農協の「日本帰化植物写真図鑑」がお勧め。いずれも2千円~4千円はするので自分の興味に合わせて書店でじっくり選んで見てください。使えば安い！(K)



コラボレーション

◆カニ山の会 と 雑木林塾

11月10日 雨 参加者9+3名

通常なら雨のため活動はお休みだが、雑木林塾生との協働作業を予定していたため、カニ山メンバーが塾生の案内を行うこととなった。

野草園集合後、カニ山の会員からさっそく野草園前の谷戸と国分寺崖線についての説明。農業高校内からの湧水などを見学しながらムクノキの実を味わう。ひきずり坂の上では武蔵野台地を確認、そこからキャンプ場へ向かい、最近東京都から調布市へ管理が移行した場所や深大寺水跡を見た。

カニ山の会が活動場所としている東樹林では

- ・会員の中でも目指す雑木林のイメージが違うことがある
- ・近隣に住む方達と調和のとれた管理の仕方をしたい
- ・樹林を訪れる人達も、散策をしたい人や遊び場にしたい子供等、目的は様々

などの現状を説明。笹刈をした場所、故意に刈残した所、方形枠などを見てもらった。

塾生の何人かは、初めてここを訪れたそうで、この地域の自然に感心したようす。また大学で関連した勉強をしている学生さんは「授業でも『地域の方とのコミュニケーションが大切』という

話があったけど実際の課題なのですね」との感想をもらっていた。塾生には今後もメンバーとしての参加を期待したい。

(NK)



調布の自然 クモ アリグモ

季節も移り、いつの間にか完全に冬となってしまいました。ほとんどの虫が姿を消す中、寒い最中でもしっかりと活動している生き物がいます。

今回紹介するのは、小型のクモの一種であるアリグモです。

本種はハエトリグモ科に属する体長1cmにも満たない小型のクモです。親グモの成熟期は夏の6~7月ですが、個体自体は年中見ることができ、調布市内でも、生け垣や公園の樹木、庭木等の葉上で、ごく普通に見ることが出来ます。アリグモの名の通り、見た目はまさしく「アリ」そのもので、木や草の葉上を歩いている姿は、じっくり見なければ、とても「クモ」とは思えません。雄(写真上)は、まだクワガタムシのような大きな顎があるため、少しは区別が付きませんが、雌(写真下)ともなると、もうどこから見てもクロヤマアリそのものといった所で、実際、たまに糸を引いて降りてくる姿を見て、クモと気づく人もいるくらいです。

ちなみに、本種の属するアリグモ属の学名(世界共通の名前)は *Myrmarachne* (ミルマラクネ) と言いますが、この名前はギリシャ語でアリを意味する *myrmos* と同じくギリシャ語でクモを意味する *arachne* を併せて名付けられた物で、世界の中でもやはり「アリに似ている」という共通認識が成されているようです。(石川和宏)



メンバー随時募集 ☆ 環境市民 活動カレンダー & おしらせ ☆

◆環境モニター

※市内の自然環境調べや「調布そぞろ歩き」のガイドを行っているグループです。
12/9(日) 10:00~12:00
 集合場所：水生植物園前
 内容：水生植物園・深大寺城址 観察
 ※今回は自主活動ですので市職員はいません。

◆カニ山の会

12/8(土) 10:00~12:00
 集合場所：深大寺自然広場(野草園横)
 内容：林縁部・歩道の補強など
 ※原則毎月第2土曜にカニ山東樹林の保全活動を行っています。活動に参加してみたい方は直接集合場所へ。
 ※会費500円+保険料500円(年間)

◆入間・樹林の会

来年2月末まで公園整備のため現地での活動は休みます。

**上記3グループとも問合せは
 環境政策課：042-481-7086へ**

国分寺崖線の整備工事のお知らせ

若葉町3丁目第3緑地(10月~12月)と入間町1丁目緑地(12月~2月予定)の散策路、フェンス等の整備工事を実施します。この期間中、緑地内は、立ち入り禁止にしますので、ご協力をお願いします。
 緑と公園課(TEL 042-481-7083)

第53回運営会議

日時：12/10(月) 18:30~20:30
場所：たづくり 304 会議室
内容：
 ・ イベント結果ふりかえり
 ・ 今後の環境市民懇談会について
 ※どなたでも参加できます。資料の用意などありますので参加希望の方は事前に環境政策課へお知らせください。

環境政策課の窓

先日の新聞記事の中に、「変わる企業の環境教育」田んぼ作りプロジェクトと題するニュースを発見した。この企業では、2004年度から環境教育の一環として田んぼ作り等の自然体験を中心とするプログラムを取り入れているという。

今や環境問題に対する取組は、企業において最重要課題であり、多くの企業で何らかの環境研修を行っている。しかし、ただマニュアルに沿った研修を受講してもマニュアルの範囲内で行動する。逆に言えばマニュアルの範囲でしか行動できないというような弊害が多々あるのではないだろうか。

またこうした研修ではマニュアルに配慮する人は育つが、真に環境に配慮した人は育たない。担当者いわく「これからの環境経営には、社員一人ひとりの自発的な行動や発想が不可欠になってくる。社員の自発性を促すには、体験を通して環境保全の大切さを実感させることが最も効果的」とのこと。

わが町調布で12月1日(土)実施の「里山の一日体験」は、きっと子どもだけでなく、大人にも貴重な体験として心に残ることと思います。

(小松昭博)



エコメッセ5周年記念講演会

ふるさとの木によるふるさとの森づくり ~東京・日本から世界へ~

日時：12月22日(土) 14:00~16:00
講師：宮脇明氏(国際生態学センター研究所長)
場所：東京都生協連会館3Fホール(JR中野駅南口徒歩5分)
申込み問合せ：環境まちづくりNPOエコメッセ
TEL 03-3209-1740
Email ecomesse@npo-ecomesse.org
参加費：500円 先着180名(申し込み順)

編集後記

今年の夏も猛暑が続き、1面に載せた環境モニターの活動があった頃は「ようやく秋らしくなってきた」と思っていたが、ここ数日は冬のような寒さ。

この自然便りが出来上がる12月1日には「雑木林イベント」があるが、その頃はカニ山の落葉樹もすっかり色づき一段と寒くなっていることだろう。寒さの中でかまどに火を入れ調布産のお米を食べる。そんな楽しい遊びができる調布の自然に感謝!(NK)



「ちょうふ環境市民懇談会」は、調布の自然環境を市民・行政・事業者の協働で保全・改善・回復していくために設立されました。2001年から保全活動の交流・支援、人材育成、情報収集・発信、提言などの活動をしています。ぜひご参加ください。

ちょうふ環境市民懇談会

連絡先：調布市環境政策課 tel 042-481-7086
E-mail: kankyuu@w2.city.chofu.tokyo.jp
調布市ホームページでカラー版がご覧いただけます
→市公式HP→くらし→環境・緑化→ちょうふの自然だより